

令和元年 11 月 26 日
川崎市上下水道局

令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 20 日（水）19：00～21：00
- 2 場 所 上丸子小学校体育館（中原区上丸子八幡町 8 1 5）
- 3 対象地域 山王排水樋管周辺地域
- 4 出席者
上下水道事業管理者 金子 督
上下水道局総務部長 大畑 達也
上下水道局下水道部長 鈴木 利之
上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴
上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通
上下水道局下水道部下水道管路課長 小林 康太
上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛
上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利
上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明
上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明

5 説明会議事

上下水道事業管理者：

川崎市上下水道事業管理者の金子でございます。台風 19 号によります浸水被害に関する説明会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。はじめに、この度、台風 19 号では多摩川の水位が過去に例を見ないほど上昇いたしまして、多摩川の水が、下水道管を逆流したことにより、排水樋管周辺地域において浸水の被害が発生をしました。結果的にこのような被害が生じたことについて、まずもって深くお詫び申し上げます。また、あわせまして被災された皆様には心からお見舞いを申しあげる次第でございます。下水道事業者といたしまして、今回の事態を重く受けとめます。原因などをしっかりと検証した上で、今後、同様な事態に遭遇した場合でも被害を最小限にできますよう、しっかりと対策を講じてまいります。本日の説明会は、昨日に続いて 2 回目ということになりますけれども、昨日同様に、被害の概要、対応の状況等について、できるだけ丁寧に分かりやすくご説明させていただきまして、ご質問やご要望をいただく時間につきましても可能な

限りとらせていただきたいと思いますと考えております。詳細につきましては、担当の課長からご説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会：

続きまして、説明会の進行等に関し、3点ほどご説明をさせていただきます。はじめに、説明会にご参加されている方個人が特定できる写真や動画の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。次に、この説明会の記録を作成するため、録音をさせていただきますのでご了承ください。次に、この会場の周辺には多くの住宅がございますため、運営上、使用できる時間が9時までとなっておりますのでご協力をお願いいたします。それでは、配布した資料について、管路保全課長の後藤から説明させていただきます。なお、今日です、初めて説明会にご参加されている方もおりますので、資料は昨日と同様でございますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

管路保全課長：

お手元にお配りさせていただいております A3 の資料に沿って説明させていただきます。右下にページを記載しております。山王-2 ページをご覧ください。こちらは、浸水被害が発生した山王排水樋管周辺地域の位置図でございます。右下の凡例にもお示ししておりますが、赤い丸印は山王排水樋管が設置されている場所を示しております。この山王排水樋管の役割は、緑色の線で囲われた丸子その1 排水区に降った雨を集めて、速やかに多摩川へ排水するための施設となっております。この丸子その1 排水区は、汚水と雨水を同一の下水道管で排水する合流式下水道でございます。今回の浸水原因についてでございますが、浸水箇所には大量の土砂が堆積していた状況を踏まえると、想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて、地盤が低い排水樋管周辺箇所で溢れたことによるものと考えているところでございます。山王-3 ページをご覧ください。山王排水樋管箇所の浸水の概要でございます。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示ししておりますとおり、濃い青線でお示ししておりますのが山王排水樋管、水色の線が、樋管に接続している下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが、上下水道局のパトロールで確認した浸水の範囲となっております。職員がパトロール時に確認したものでございますので、実際に浸水した範囲と多少の誤差があるかと思っております。大変申し訳ございませんが、その点につきましてはご容赦いただきますようお願い申し上げます。また、右側はパトロールの時に撮影した現地の写真でございます。位置図に記載のある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には撮影した日時を記載しております。この地域では、上下水道局で確認した中では、想定浸水面積が約 45 h a で、南武沿線道路と南武線との赤丸でお示ししている地点で、およそ 1.3m の浸水があったことを確認しております。続きまして、4 ページをご覧ください。今回の台風第 19 号による山王排水樋管箇所の災害対応について、ご説明いたします。左上の

図をご覧ください。赤丸でお示ししている山王排水樋管は、緑枠で囲んだ丸子その1排水区の雨水を多摩川へ排水する施設となっております。当該排水区は合流式下水道の地域であるため、汚水と雨水を同一の管で排水しております。雨天時には、排水樋管の手前にある雨水吐と呼ばれるマンホール内に設置された堰を超えた下水が多摩川へ排水される構造となっております。上段右側の樋管ゲート写真にお示ししているのが山王排水樋管でございます。この山王排水樋管は、縦2.43m、横1.5mのボックスカルバートが2つある構造となっております。この樋管の縦断図を左下にお示しております。縦断図に記載の数字は、多摩川の基準面から測定した高さでございます。樋管の底部の高さは2.822mとなっております。樋管に設けているゲートは、破線の部分に設置しており、通常はゲートを上げて樋管を開けておりますが、このゲートを下げて、樋管の出口をふさぐことで河川から下水道への逆流を防止することが可能です。一方、ゲートを下ろしている間に市街地に雨が降ると、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性がございます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があります。操作手順に従い操作しております。次に右下の図をご覧ください。樋管との高さ関係を整理した図を示しております。雨水吐室内の堰の高さは3.49m、山王排水樋管箇所の最低地盤高は6.545mでございます。なお、当該排水区は、過去に浸水被害が多く発生していた地域であったことから、平成23年度から平成28年度にかけて、時間雨量52mmから58mmの降雨に対応できるようグレードアップし、さらに既往最大降雨である時間雨量92mmにおいても床上浸水とならないよう、丸子雨水幹線の整備などの浸水対策事業を進めてきたところでございます。続きまして、山王-5をご覧ください。次に、この山王排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明いたします。山王排水樋管についてと記載のある上部の箱書き部分をご覧ください。この操作手順では、多摩川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には、山王排水樋管ゲートの閉鎖の判断を行うこととしております。まずはじめに、四角で囲っている3点目の箇所に記載しておりますが、操作の前提といたしまして、降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合は、山王排水樋管ゲートを全開にするとしております。これは、ゲートを閉鎖することは、内水氾濫の原因となりうるため、市街地等で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合には、ゲートを閉じないこととしております。この箱書きの1点目をご覧ください。操作の第1段階の判断といたしましては、内陸に降雨または降雨の恐れがない状態において、山王排水樋管地点の河川水位が3.49mを越えた時点で山王排水樋管のゲートを全閉とするとしております。3.49mは堰の高さでございます。この水位を超えると地表面に水は溢れてこないものの、下水道の堰を超えて多摩川の水が下水道の中に入り始めることが想定されますので、この時点で判断することとしております。その下の2点目でございますが、第2段階の判断といたしまして、田園調布(上)水位観測所の河川水位7.60mにおいて、周辺状況及び丸子ポンプ場の状況を踏まえ、ゲートの開閉を総合的に判断することとしております。中央左の図は、台風第19号が上陸した、10月12日～13日にかけての多摩川の水位と中原区役所での雨量データを

時系列で整理したものでございます。青い折れ線でお示ししているのが田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風第 19 号により河川水位は 22：30 に 10.81m という、田園調布（上）水位観測所での計画高水位である 10.35m を超える観測史上最高水位を記録しております。また青紫の棒グラフは中原区役所での 10 分ごとの雨量観測データを表示しております。この図の右側には、当日の山王排水樋管における活動記録を記載しております。この活動記録をご覧くださいますと、今回、山王排水樋管における河川水位は 11 時 30 分に 3.49m を超えたことを現地で確認しておりますが、当時は排水区内で降雨などがあったため、操作手順に基づき、ゲートの閉鎖は行っておりません。さらに、15 時頃に田園調布（上）水位観測所の河川水位が避難判断水位である 7.60m に達したことを確認しておりますが、この時点では、排水区内で降雨が確認されていたこと、さらに台風第 19 号がまだ上陸しておらず今後大雨が降る懸念があり、ゲートを閉鎖することにより内水氾濫が拡大する可能性など総合的に判断し、操作手順に基づきゲートを閉めないという判断を行っております。その後、大雨警報が発令されている状態ではございましたが、降雨が実測されなくなったこと、河川水の影響により下流の丸子ポンプ場への流入量が大きくなり、ポンプ場が水没する危険性が高まったこと、河川水位が非常に高い状況であったことから、22:52 に操作手順に基づきゲートの閉鎖を開始しております。その後、段階的にゲートの閉鎖作業を行ない 10：50 にゲートを閉鎖しました。また、16：50 に現地にて河川の水位が 3.49m を下回ったことを確認し、ゲートを開く操作を行いました。以上が 10 月 12 日～13 日にかけての山王排水樋管のゲート操作に関する実態でございます。続きまして、下段の黄色く着色した箱書きをご覧ください。今回の浸水原因と今後についてでございます。山王－4 ページでご説明いたしましたが、丸子その 1 排水区では、丸子雨水幹線の整備などの浸水対策事業を進めてきたところでございます。しかしながら、今回の浸水は、下水道管理者としては内水氾濫を発生させないよう、操作手順に従いゲート操作を行っていたところでございますが、我々としても経験したことのない事象であり、多摩川が観測史上最高の水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川水が溢れたことによるものと考えているところでございます。また、今後につきましては、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても、被害を最小化できる方策を検討する、と記載させていただいております。こちらにつきましては短期的な目標として記載させておきまして、まず効果が早くに発揮できることなどの取組みに取組み、被害の最小化に努め、その後、抜本的な検討についても検討してまいりたいと考えております。なお、次の山王－6 ページでございますが、山王排水樋管周辺地域の地盤高図と浸水範囲等をお示ししておりますので、こちらにつきましては後ほどご覧くださいようお願い申し上げます。A3 のお配りした資料につきましては、説明は以上となります。

中部下水道事務所管理課長：

続きまして本日お配りしました。合同防災勉強会に関する議事録について説明させていただきます。こちらのですね合同防災勉強会というのはですね、11月3日に上丸子山王1丁目町内会様、同じく2丁目町内会様の、合同防災勉強会っていうのが開催されました。この勉強会において平成29年に発生しました台風の被害の浸水軽減対策案のご説明に加えまして、今回発生しました10月12日の台風第19号による浸水被害についてもあわせてご説明いたしました。その議事録になります。その際にですねご質問がありまして、その場でお答えできなかったご質問について説明させていただきます。質問の内容はですね、ゲート操作のマニュアルはいつ誰が作成したのかというご質問です。ゲートの操作手順はですね、上下水道局で作成しておりまして最近では平成29年の台風による浸水後ですね、平成30年に中原区役所危機管理担当と連携を組みまして、住民の皆様への周知の方法、避難情報の伝達を強化するという見直しを行っております。その後平成31年4月から現在のゲート操作手順を運用しております。平成31年4月以前につきましては、昭和59年3月に山王排水きかんについての操作に関する手順が定められておりまして、その後平成12年に改訂を行っております。

司会：

それでは、引き続き質疑応答に入ります。できるだけ多くの方にご発言の機会を確保いたしたいと思っておりますので、大変恐縮でございますが、質疑応答は、お一人様概ね5分ということでお願いできればと思います。また、本日は座席を縦4列のブロックに分けさせていただいております。ご質問等は、ステージに向かって左の列のブロックの方から順に伺ってまいりますのでよろしく願いいたします。それでは、ご質問等がある方は挙手をお願いいたします。

質問者1：

昨晩も出席させていただいて何点か質問させていただきました。最後にお願いとして、短期・中期・長期の部分に対するおおまかな、なんでもいいから12月に議会終わったあと方向性を示してくださいと、3月という部分を12月に前倒し、というお話をさせていただきました。それとはまた別に、今回こういう被害が起きた原因という部分で、さきほどから説明をされている樋管のゲートの操作について、公表という部分でしてほしい、開示してほしいというふうをお願いしたなかで、わかりましたという回答をいただきました。もうそういった部分では、今日会場に入るときにみなさんにお渡ししていただけるのかなという期待を持っていたんですけども、残念ながらいただけない。昨日の開示という部分では、まずどういう開示という了解事項であったのかという説明をしていただきたいと思います。

管路保全課長：

昨日最後にご質問いただきまして、開示ということで私のほうで開示できますと、操作

要領につきましては、見たいというかたは文書の開示をしていただいておりますに、お示しをするというのが正しい手順といたしまして、今回そういう対応をとらせていただきました。

質問者 1 :

非常にこう、昨日のその回答の部分で、そういうふうな形で言っていただければ、まだわかったんですけども、昨日の状況で、わかりましたと。開示してください、わかりましたという返事のなかでは、ペーパーが当然配られて当たり前かなと思いました。ここ非常に大切な部分だと思いますよね。ゲートの役割・目的という部分で、昨日も冒頭に私こういう形のなかで質問をさせていただいて、第二条にどういうふうに目的書いてあるんですかってお話をさせていただきました。その部分では、内水に逆流しないようにしなきゃいけない、という部分で、目的がありますよね。逆流を防止するためのゲートですよ。すごく大事なこと。それに対する操作、どのように書かれているのかなという部分で、国でも通達なりしてどういうふうにその操作の基準を定めていくかっていうのは、大事な部分で行われているはずなんですよ。そういったものを示してほしい。で、29年の関連っていうのは非常に皆さんあまりご承知ないところだと思っています。そういった部分でわれわれは29年の浸水にも、山王2丁目については9棟の床上浸水を記録していると、そういった部分で二度とそういった操作のミスがないようなかたちのなかで、二度と繰り返してほしくないという部分と、いろいろ操作においては、いくつになったら、水位がいくつになったらゲートを閉めてくれるんだという部分であったり、堰の高さについても、今回はじめて、堰の高さを越えたらゲートを閉めるということをはじめて聞かされた。そういう部分で、小出しに、すべての資料を小出し小出しにされてるんです。保身でしか見られないですよ。そういう意味で、根本的な部分の操作の要領というのを開示してほしいと、いうふうにお話をさせていただいた答えが、いまの答えですよ。我々からすると、今回の山王2丁目の被害っていうのは約370戸が床上浸水ですよ。罹災証明そのものも550件くらいですよ。そういう方たちがここにもたくさんいらっしゃる。もうそういう意味では、私も含めてなんですけども、高齢の方がたくさんいらっしゃる。この先どういうかたちで復興していったらいいのか不安にかられている方々がたくさんいますよ。そういう思いをどういうかたちで操作をされて、こういう結果になったのかというのは、非常に大きなことだと思っています。昨日も結果的には総合的に判断してるという部分で、29年に記録している8.4mと記録しているというところで9棟が水没してるんですよ。今回の部分で、15時に7.6っていう数字が水位観測できてますよね。その時にはもう道路が冠水しはじめるってことがわかってきてるはずなんです。29年の結果を見て。その部分って、1つだけ答えていただきたいです。想定外にもって言葉は必要ないですよ。もう浸水するのがいたしかたないと思って全開にそのままにしたのか、その部分だけ答えてください。

中部下水道事務所管理課長 :

15時の段階でゲートを閉めなかった判断についてご説明します。市内に降雨がありまし

て、横浜地方気象台発表の気象予報が、朝・昼・夕方と何回か発表されておりました。その予報ではですね、時間あたり 50mm もしくは局地的に 80mm の降雨が予想されるという天気予報でございまして、15 時の 7.6m の時点でゲートを閉めてしまうと下水道管の内水が排水できなくなってしまって、浸水被害が拡大するのではないか、そういった判断をいたしました。その判断によってゲートを閉めないという判断をしております。

質問者 1 :

想定はされていたということですよ。山王 2 丁目が 95% 水没しました。想定されていたということですよ。そうとっていいんですよ。

市民 1 :

答えろ。早く答えなさいよ。

中部下水道事務所管理課長 :

防災部長のおっしゃるとおり、平成 29 年にも同様の浸水被害が発生しておりました。それも私たち職員は把握しておりました。今回の台風 19 号でも降雨がありまして、多摩川の水位も上がってくる上昇傾向もわかっておりました。わかっておったんですけども、その今後降る大雨がどのくらいか、気象予報によって今後 50mm から 80mm の大雨が降るということで、ゲートを閉めてしまうと排水がですね、さらに浸水が広がってしまうんじゃないかと、そういう判断を中部下水道事務所でおりました。

市民 1 :

あーちょっとすいません。ちょっといい。ひとこと言っていい。あのね、昭和、なに、平成 29 年の台風のとときの 2 丁目が浸水したときってのは、多摩川の水位はどのくらいだったの。

質問者 1 :

8.4

市民 1 :

8.4 ってことはどのくらいまできたの。水門を閉めるか閉めないかってときに、もう浸水したわけだよね。それ。

質問者 1 :

もう開いている状況。今回と同じ。

市民 1 :

開いてるってね、こないだも 1 丁目の会館で説明したんだけど、あその下水はなんのためにあるか知ってます。ね、うちの前で 5m いくつと 1m 掘って、2m のヒューム管を入れました。それはなんのために入れたかわかります。ね、川崎市に降った雨を流すためのなんだ。ね、あんたたち言ってんのは、多摩川が上昇したのはどこに降った雨なの。ね、わかっている。川崎に降った雨じゃないんだよ。東京で降った雨なんだよ。そういうの把握してないでしょ。多摩川は上流から水が流れてくるんだよ。川崎市に降った雨なんか流れてこないんだよ。どこにも。せいぜいバス通りでマンホールの蓋が上がる程度なんだよ。

それでも 2 丁目は浸水したわけだよね。てことは、あんたたちは世間を見てないってことでしょ。どこを見てたの。川崎市はこの辺だけ降った雨だけ把握すんの。50mm、80mm って言うけど、どれだけの雨が降ったの。ね、わかる。東京の小河内ダムの水門開けたとたんに、この辺じゃ水位が 4m くらい上がるんだよ、いっきに。そのためにサイレンを鳴らして水門を開けますよってやるんだよ。ね、大雨知ってること、その辺で降った雨が上流から流れてこない。そこに小河内ダムの水門開けたらどのくらい上がると思いますか。普段でも水が上がってこう、大雨で上がってきました、上流に降った雨が。そこにダムの水門開けたら正直言って 4m、5m いっきに上がる、7m なんかそこのとこじゃないんだよ、上がるの。そういうの把握してます。あんたたちは川崎市だから、川崎市だけ見てりゃいいってもんじゃないんだよ。全てを見なきゃだめなんだよ。あなただってね、ただ給料もらってるだけじゃないでしょ。ね、そういうこと考えたらもう少し周りを見なさいよ、周りを。東京もそう、埼玉のほうもそう、山梨のほうもそう、多摩川の上流にいろんな支流があるわけでしょ。そっから出た雨がどれだけの水量でこっちにくるか。ね、上流ってのはさ・・・

質問者 1 :

はいはい、ちょっと私のほうの質問なんでごめんなさい。あの、次の次のときをお願いしたいんですけど、まあ結果的に行政の答えっていうのは昨日も今日もあんまり変わってないというふうに思ってるんですけども、たぶんこの中ではたくさん議員さんもメディアの方もいらっしゃると思ってます。そういう意味で今回の行政の判断っていうのが本当に正しかったのか、っていう部分では、議会のほうでもう十分議論していただく中で、調査委員会なんか立ち上げていただいて有識者を招いて、しっかりと調査をして結果を出していただきたいというふうに思って、私からの質問は終わります。

質問者 2 :

この山王-2 という地図のところです、小杉御殿町 1 丁目のこの山王排水樋管の範囲になってたんですけども、この地図のところにですね、等々力ポンプ場っていうのがありますね。で、ここの等々力地域っていうのは、かなり昔、多摩川だったとこで低かったんですけど、今回水害は受けてないわけですよ。私の知り合いが翌日ポンプ場に行ったら、係のかたが、このポンプ場が稼動して等々力の地域を水害から守ったんだという話を聞きました。で、その水は、って言ったら、多摩川にジャーってやって多摩川に流すんだということなんです。そうすると、この山王地域にそういうポンプ場があれば、そういうことは可能だったのかっていうことと、あと、この先に丸子のポンプ場というのがあるというのをいま知ったんですけど、それはどういう役割を果たすのかということ、この山王地域をやるんじゃないかって、もっと北の地域の役割を果たすのかということ、どうなのかということをお知らせください。それとあと、管轄ではないかもわかんないんで、先ほども出たんですけど、多摩川にかなり中須があるんですね。つまり、土砂がきて、水位が土砂で上がって

川の水位が低くなってる。だから、今後のことを考えれば浚渫ですよ。をしないと、またこのようなことが起こるんじゃないかと、でその場合、どこが責任をもってそういう浚渫をやるのかということをお願いします。

施設保全課長：

まず等々力ポンプ場でございますが、等々力排水区というのがございまして、この山王2の図面で行きますと緑の枠で囲っている左側ですね、等々力排水区というところがございます。そこに降った雨水をですね、多摩川に排水する役目を持っています。ここはポンプで多摩川を押し排水してございます。ここにはですね、等々力水処理センターという下水処理場がございます。下水処理場できれいにした水も多摩川に放流しています。等々力ポンプ場から出た雨水の排水とそれから等々力水処理センターから出た処理水の排水が一緒になって小杉排水樋管というところを通して多摩川に排水するという構造になっております。それとですねもう一点の丸子ポンプ場のお話でございます。丸子ポンプ場につきましては丸子その1排水区、この緑色のところですね、こちらの汚水、それから丸子その2排水区、そちらの汚水と雨水を処理をする、そういった役目をしています。丸子ポンプ場に流れてきた水、ここは合流のポンプ場でございますので、晴天時は汚水が流れてきます。汚水につきましてはここから汚水ポンプで加瀬の水処理センターに送水をして下水を処理して鶴見川の方に排水しております。ただ、雨水については合流なので雨が降ると一つの管で流れてきますので水かさが上がってきます。そうするとここに雨水ポンプというのがございます、そこから多摩川の方に直接排水するという構造になっております。いずれもそこにも樋管がありまして、そこはポンプで排水するための樋管が付いております。そういう構造になっております。

質問者2：

等々力ポンプ場は、今回有効に発揮したから、この等々力の浸水被害がなかったと理解してよろしいでしょうか。

施設保全課長：

正確なところははっきり分からないんですけども、若干少し水が上がったという情報は聞いておりますけれども、床上浸水とか広い浸水にはなかったと伺っております。

管路保全課長：

続けて先程最後のご質問、多摩川の浚渫のお話があったかと思いますが、多摩川を管理しているのが国土交通省になっております。多摩川を浚渫すると水位が下がるんじゃないかというご意見は他もございまして、私ども管理している事務所の方に問い合わせをして、こういったご意見がございましてお伝えをしていこうと今アポイントをとっているところでございます。

質問者2：

すいません。アポイントですか。それこそ数年前にあったということで浸水というのはそのときから相談しないとまずいんじゃないですか。しかもそれこそ川崎市だけの問題じ

やないでしょ。国土交通省がやるのは分かるんですけど、周りの東京都とか上流の方もあるので、総合的にやって関連のところで国土交通省に対して要求すべきことではないのかと、アポイントって言葉では軽いなと思いました。

下水道計画課長：

先程の多摩川の件なんですが、説明会をやらせていただいているなかで、他の所でも多摩川の中洲の土砂とかの影響もあるんじゃないでしょうかというご意見もいただいております。今回この市内 5 箇所の樋門ですすね浸水がおきていることから、ゲートについてもですすね、構造と操作も現在手動ですので、そういうところも見直していくなかで、必ず国土交通省の京浜河川工事事務所と協議は必要となってきます。その中でですすね今いただきました土砂の話についてはしっかりさせていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

質問者 3：

逆流がすることの危険を知ったのはいつですか。どなたでもいいです。簡単に教えてください。藤井さんが一番近いから藤井さんがいいでしょう。所長だから。簡単でいいですよ。7つ聞きますから、すぐぼんぼん答えていいですよ。危険を感じたのはいつですか。逆流の危険を感じたのは。

中部下水道事務所長：

実際今回の台風にあたりまして、現地のパトロール等行っておりまして、パトロールの結果ですすね、浸水が確認できたのがだいたい 15 時 45 分くらいでございます。

質問者 3：

12 日ですすね。

中部下水道事務所長：

そうです。

質問者 3：

でも危険は感じてなかったね。その時は。私が聞いているのは危険を感じていたかどうかだよ。

中部下水道事務所長：

その前にもですすね。マンホール内の水位等についても計測しておりましたので・・・

質問者 3：

危険は感じてなかったの。

中部下水道事務所長

危険は感じてございました。

質問者 3：

危険は感じてたのね。次いきます。水門の閉めたり開けたりする決定はどなたがやるんですか。あなたですか。

中部下水道事務所長：

はい。水門の開閉の判断は中部下水道事務所長が行うことになっております。

質問者 3：

あなたがやってんだね。次いきます。当日、あそこの水門には何人くらいの人が行きましたか。

中部下水道事務所長：

だいたい、1回のパトロールで、3人体制ぐらいでパトロールを行っております。

質問者 3：

決定はあなたのところがしたの。それともう一つは、水門を閉めたり開けたりする雨の量はどれくらいを考えてるんですか。雨量です。雨量。

中部下水道事務所長：

開閉の雨量ですか。

質問者 3：

そうです、そうです。

中部下水道事務所長：

具体的にですね、雨量がいくつになったら・・・

質問者 3：

そういうのはないのね。水路がいっぱいになってくると閉めるということでもいいのね。

中部下水道事務所長：

その点につきましては、当日の実際の降雨がどれくらい降っているかとか、あと、今後の雨量の予測ですとか、当然、多摩川の水位の関係等もございますので、そういったものを総合的に判断しているというところがございます。

質問者 3：

次、水門を閉めるのを決めたのは何時頃決めたのですか。

中部下水道事務所長：

水門の閉鎖につきましてはですね、お手元にお配りしました山王-5の資料に書いてございますが、10月12日22時52分にゲートの閉鎖を開始しております。

質問者 3：

ありがとうございます。その時の増水の結果は、逆流はしていましたか。まだしていませんよね。

中部下水道事務所長：

この段階でということですか。

質問者 3：

はい、そうです。

中部下水道事務所長：

こちらで現地の状況を確認いたしますと、マンホール等から土砂が出てきたのを確認

しておりますので、逆流が発生していたのではないかと・・・

質問者 3 :

逆流してましたよね。はい、わかりました。そうすると浸水することを想像できましたよね。うちの方の山王町 2 丁目では、逆流してるのだから浸水することは想像できましたよね。

中部下水道事務所長 :

想像できたというか。

質問者 3 :

頭の中で、こりやまずいなと思ったでしょ。

中部下水道事務所長 :

当然、浸水する可能性については考えてました。

質問者 3 :

考えてましたよね。あと、12 日の午後 10 時 52 分から水門が閉まるまでに半日掛かりましたよね。水門が具合が悪くて手かなにかでやってたのか。私の聞くところによると自動じゃないってことを聞いたんで、人間の手で 10 時間から掛けてやってたの。

中部下水道事務所長 :

水門の操作につきましてはですね、手動となつてございますので、操作としては人力で・・・

質問者 3 :

それを 10 時間掛けてやってたのか。

中部下水道事務所長 :

10 時間張り付いて、下げる作業をやってたということではないのですけども・・・

質問者 3 :

どうして 10 時間も掛かるの。

中部下水道事務所長 :

ゲートが下がらなかった要因につきましてはですね、今のところまだ具体的に・・・

質問者 3 :

分かんないんだろうけど。私の想像では整備不良だったんだろ？整備してないんでしょ。

中部下水道事務所長 :

整備不良ということではないというふうに考えてございます。実際に、当時なんで下がらなかったかという理由についてはですね、まだ具体的に・・・

質問者 3 :

あなたが責任取れなんて言ってないんだよ。本当のこと言えば、整備を普段ちゃんとしてないから下がらなかったのでしょ。水の無い時は 1 分で下がるって言うじゃないか。そうだね。

中部下水道事務所長 :

通常の、はい。

質問者 3 :

それだけ分かればいいんですよ。私は。

中部下水道事務所長 :

整備不良ということではなくてですね、台風以降、ゲートについては水が下がった、日にちはいつというのはあれなんですけども、水が下がった段階で、動作確認を行っておりますので、その際は正常に作動しています。

質問者 3 :

当日だけ正常じゃなかったんだね。不良だったんだね。

中部下水道事務所長 :

それにつきましてはですね、具体的に今後検証していかなければいけないのですが、なにかきょうぎつ物が挟まっていたとか、あるいは水圧の影響があったとか、そういった理由も考えられますので今後、検証を進めていきたいというふうに考えてございます。

質問者 3 :

だからはっきり言えば、お役所の方は大半、現場にはいなかった人も結構いるようだったからさ。やっぱり、あな方は天職なんだから、今やっていることがさ。しっかり見てもらいたいと私思ってるんですよ。それと 12 日の午前 6 時以降の多摩川に水位はどうだったんですか。

中部下水道事務所長 :

12 日の午前 6 時の水位ですか？ 13 日ですか？

質問者 3 :

13 日です。勘違いです。13 日の 6 時以降の水位はどうだったの。

施設保全課長 :

6 時以降の多摩川の水位については、6 時以降といいますか、12 日の 12 時半ごろをピークにそれ以降は下降傾向にあったということでございます。

質問者 3 :

分かりました。それで 12 日の日に我々とか 10 時頃から浸水し始めたんだよね。

中部下水道事務所長 :

浸水が発生したのが 10 時 45 分ごろです。

質問者 3 :

そうですか。わかりました。以上です。

中部下水道事務所長 :

ありがとうございました。

質問者 4 :

私の方は、質問ではないんです。できたらやって頂きたいというのがあり、というのは

排水の、建物の土台がありますよね。その土台の下に排水の穴を開けてもらいたいです。それというのは、私が13日、12時半から1時頃夜中に起きて、それで見た時に水が引いていたんですけど、朝起きてみたら、ちょうどその床下ですよね、それが家のが450ミリというんだけど、その半分くらいの約25くらいまでで水が溜まってた訳なんです。それで、どういうあれなのかなと、よくここまで下がったかと、床上には大体見たら上がっていましたから、それが引いてたのでどうかなと思って、朝回って見たら、60パイくらいのトヨが抜いてあったんです。それをあの業者の方で、後で聞いたら、仕事をやるためになんというのか、基礎コンクリをやると水が溜まりますよね、その時に流れるようにこれがあると、それがちょうど外のほうに出て、そこから湧き水がブクブク出ていたんですよ。それで、これで減ったんだなと思ったんで、排水の穴を開けてもらえば、その残りがどうしても水圧が弱くなると出てこなくなっちゃうんです。それで業者の方に電話して来て見たら、それはもう排水のための何と言うかね、水が出たときのためのものではなくて、工事をやるためのあれだから、多少残るだろうという話になって、それで、下の所に排水孔をつけたらどうなのかという話になって、それでどのくらいかかるんだってたら、3万円くらいかかるんだって1つのものが、それを1軒でみるとだいたい3本は必要になる。そうするとそのままいっても、10万になっちゃいますよね。それで今、私は自分でたたんでご存知であると思うんですけど、それを使ってハンマーでやっているんです穴を、それで65パイくらいの穴を開けて、そこへあのトヨのあれを差し込んで周りの口元を埋めて、ねずみがなんか入らないように蓋をするっていうのを今考えてやっているんですけど、まあ何しろ、セメントは硬いですよね。知っての通り。そのためにこの、もし行政の方で手助けしていただけるんだったら、3本必要なんだけど3本やるというのは大変なものですから、たとえ1本でもいいから、それを行政の方で何とかしてもらえないかなと思って、みなさんもある程度思っているとそういう理由で来たんですけど、それですぐ知っている人が、そばにいたから片付いたかってついたら、いやまだ全然片付いていないって、結局は水はけをスムーズにそうやって抜けるようにしないと実際にはダメなんです。私は、あの、その何て言うかね、水引きとそれとポンプを持っているんです。水中ポンプを持ってて、それで水中ポンプで上げたから1時間くらいで家の場合は、水が上がっちゃっているんです。だけど隣近所に聞いてみたら、実際には、すごい水が上がりなくて、それであの、家にあるポンプ使ってくれっていうんで3軒かな4軒かなやったんだけど、なかなかそのあれがね、うまくいかないもんだから、今は一応終わりましたが、まだ来年も再来年もこれからずっとありますよね。それで、下水の工事の昨日の話しで出ている一緒にいた人が、まあ20年かかるて、その前に何で20年かける間にその今一番必要なのは今現在、水をどうするかっていうのが私は必要じゃないかと思っている。それで今日お願いしたいなあと思って、また来た訳なんです。だから、そののところ、たとえ3本は必要なんだけど1本でもいいから行政の方で考えて欲しいんです。そうすれば、あの、財政具合で私がやっているのは、それはあの業者の話したっていうのを、だいたい60パイくらいのとよだ

ってね丸とよ、あれで十分出ると思います。すごいですよ、あの、ちなみに湧き出るような流れでも、そうですねあれが12時半か1時頃きたのかな、それでその時に、家の方では5時くらいに床上があったんだけど、その時には水はきれいに引いていました。それ上屋ね、あの床上は、それで、・・・

下水道管路課長：

すみません。今の話をですね、伺った中では、私の解釈が間違っていたらあれなんですけど、一応、個人のお宅の中の基礎に穴を開けて欲しいと聞こえたんですが、例えばですね、●●●様のうちの前が、水がこう浸水してしまうと・・・

質問者4：

そう、それね、ひくのと同時にできるようにしてもらえばいいんです。

中部下水道事務所長：

お話しをお伺いした感じだと、一回現地の方を確認させて頂ければと思いますので、後日になってしまうのですが、私ども中部下水の方で、お伺いさせて頂いて、現地の方を見させて頂けるとありがたいのですが。

質問者4：

もしあれでしたら、見てもらえればね、あの、このくらいの穴を開けてね、今45か50くらいもう開けてあるんです。それを向こうまでに抜くには、まだこれから1日に1時間かそこらしかやらないですから、何日かかかるでしょう。だからそれを見てもらいたい。よろしければ、それが一番いいと思います。それで業者にもそれ言ったんですよ。業者の人も言ったことがわからなくて、私が言い出したら、それを見てここにあるんかって話になって、もしあれだったら、一つ手助けしてやるよって言ってくれたんだけど、先はどうかわかりません。だから、そのあれを見てもらいたい。

中部下水道事務所長：

了解しました。申し訳ないのですが、もしあれでしたら、説明会の後にですね、説明会の終わった段階くらいにですね一度詳しいご住所を教えて頂ければと思います。よろしくお願ひします。

質問者4：

わかりました。結構ですよ。ただ、皆さん、たぶんそれはね。・・・

質問者5：

資料いただきました山王-4の全景写真2というのを見させていただいて、樋門を閉じるというのはこの手前のところまで行って人が閉めないといけないということなんでしょうか。

中部下水道事務所管理課長：

この青い通路を、多摩川の方に向かって青いポールが2本立っているところでゲートを操作します。

質問者 5 :

関連して、この柱に白い線があるんですけど、えっとこれもしかするとここより水位が高い場合は近づいてはいけないとか、身の危険があるよって言うようなサインでしょうか。

中部下水道事務所管理課長 :

全景写真の2番でよろしいでしょうか。

質問者 5 :

はい。

中部下水道事務所管理課長 :

2番白い線があるところはですね、こちら山王排水樋管の多摩川の計画高水位という高さの表示になります。その計画高水位というのは多摩川を作ったときの多摩川の水位はここが一番高い線ですよと計画上の想定した高さの位置になります。

質問者 5 :

じゃあ、これ以上水位が高かったら近づいてはいけないとか、そういうものではない。

中部下水道事務所管理課長 :

基本的には氾濫危険水位、8.4m、そちらを超えてくると人が立ち入らないようにというような水位になります。

質問者 5 :

わかりました。ありがとうございます。

質問者 6 :

ちょっといいですか。あの、言うことじゃないかもしれないんですけど、あの、来年同じ様なことがあったときに、どのようにすればいいのか、なんかちょっと、お答え聞きたいんですが。来年も同じ事あるかもしれないし、再来年も同じ事あるかもしれないし、その辺、どのように考えてらっしゃるのか、ちょっと聞かせていただきたいなと思います。どなたでも良いんで。

下水道計画課長 :

今、ご質問いただきましたとおり、今回観測史上初といいながらも、こういう台風が来てしまったという事実を踏まえますと、来年も来ないということは無いと思ってございます。ただしかしながら、対策をやっていく中で、当然時間の掛かるもの、すぐ出来るもの、そういう物をですね、整理してですね、スピード感を持ってやっていきたいと考えております。今、来年までに出来ることということなんですが、今我々として考えておりますのは、また多摩川の水位が上がってですね、この様な被害を出してはいけないというふうには思ってございます。ですので、今考えておるのは、今回まずゲートについて色々ご意見をいただいております。

市民 6 :

具体的にしゃべってください。具体的に。何をするのか明確にしてください。それじゃ

ないとわかんない。

質問者 6 :

あのさあ、言い訳大会じゃねんだからさあ、もっとちゃんと、どうすればいいのか、どう考えてんのか、それだけ聞きてえわけ。

下水道計画課長 :

はい。わかりました。今考えてますのは、仮のポンプを・・・

質問者 6 :

だから仮の話聞いてんじゃねんだよ。どう考えてるかを教えてくれって。そうじゃないとみんな安心しねえじゃねえかって。

市民 6 :

そうだ。

下水道計画課長 :

言葉が足りなくて申し訳ありません。

質問者 6 :

そうじゃなかったら今すぐ答えなくてもいいけど次までに、こういうふう考えてますんでって。それ無いと、皆さん心配なんっすよ。お願いしますよ。すいませんね、生意気言っちゃって。だから、もう良いつすよ後で、いろんな質問したい人いるんで、俺はただ思ったから言っただけで。考えて、ね、こういうふう考えてますんでって、何か方法を具体的に一つでも出していただきてえなって。

下水道計画課長 :

はい。来年の雨季までには、検討中なんですけどポンプを用意してですね、少しでも中にたまる、やはり我々は内水を少しでも外に出していくのが仕事ですので、内水をはけるような対策をして・・・

質問者 6 :

こうやって人が集まったときに資料に書いて持って来れば、それだけでさあ、違うこと質問できるでしょって、昨日来てないから生意気なこと言っちゃいけないかもしれないけどさあ、皆さんたぶん同じじゃねえかなって。

下水道計画課長 :

今後資料については工夫したいと思います。申し訳ありません。

質問者 7 :

すみません今の言葉に続けてちょっとお伺いしたいんですが、来年また置るかもしれないよって時に関してはゲートを閉める。今回閉めなかったゲートを閉めたら内水氾濫が起きました。どのくらいだったのか昨日の段階でシミュレーションも検証もしてないとおっしゃいました。それまずしてください。そして具体的な対策が 1 年でどこまでできるのかっていうことであればまずゲートをしめる。内水は降った水、それからいろんなところ

から流れて処理能力を超える。処理能力を超えたら内水氾濫はこのくらいまで来る可能性があります。それハザードマップにしましょうよ。今まで多摩川が私ずっと子供の頃から50年多摩川沿いに住んでます。多摩川がこんなに悪く言われたの初めて。ちょっとショックだわ。多摩川のせいじゃないでしょ。私たちのせいじゃないでしょ。泥がなくて今回、泥がなくて単なる水だけだったら内水被害のほうがマシだったよってって方いっぱいいるんですよ。水が引いた後、見てみたら田んぼですわ。これいい泥かもしんねえなっていうくらい、田んぼでしたよ。長靴ではいると、抜けられないんだもん。まさか自分のうちの近辺でこんなこと起こるなんてみなさん思っていないですよ。で、私たち説明会ということだったので、補償してくれるんじゃないかなっていうふうに、考えています。だってこれ人災ですよ。はっきりいって。自然災害というよりも人災に近いですよ。でもマニュアルどおりにやりましたということなので、じゃあそのまずマニュアルは間違ってるよね。雨が降って内水とそれから多摩川の逆流をどうしましょうというところで、内水がどのくらいの被害になるのかっていうのをシミュレーションしてないようなマニュアルって間違ってるよね。まずその部分を検討してください。それで内水がだめなんだったら、どのくらいなのかハザードマップ作ってください。最短でできることですよ。命をかけて手動で人命を犠牲にしてゲートしめろとは言わない。だけど、被害がでそうなので、閉めますよ、言ってよ。ゲート何時に閉めます。言ってよ。そしたら水がくるぞってみんな覚悟しますよ。だって目の前で降ってるんだもん。今回、山王町に山盛り水がきて、泥が来て、もしかすると、もっと下流の人たちは助かったんですよ。それを考えたらちょっとだけああ助かった人もいるのかもしれないなと思ってなんか気持ちを持っていこうかなと思ったんですが、人災だもんね。多摩川周辺、周辺に住んでるんだから水害をゼロにしろっていうのは難しいってみんなわかってます。でもゼロに近づくために、手動じゃなくてもよくないですか。この辺いっぱい優秀なIT企業だって、電気屋だっていっぱいいるでしょ。そういうところとしっかりした対策をしない。じゃあ対策の委員会なり検証委員会というのはできてるんですか。できてないですよ。まだ。いつつくるの。補償を考えている人たちと、それから安心して暮らしたいと思っている人たちに向けて、きっちり分野わけをして、説明会をすることを希望します。以上です。

下水道計画課長：

今たくさんご質問いただいたのでその中でお答えさせていただきます。まず今回につきましては、データの件につきましては検証してまいりたいと考えております。また、内水のハザードマップにつきましては、現在作成のほうに取り組んでございますので、来年度にですね作成、公表めざしてございますのでできるだけ早く皆様にお示ししたいと考えております。

質問者 8：

このセンターは下沼部と中丸子の境界のところの昔水路だったところの横にあります。

ここが今回初めて、ひざ上の浸水をしました。これはどういうことがおきたかという、上丸子山王町にたまった水が、下沼部の標高でいうと一番高い位置、下沼部の交差点あたりを、越えてその水が小杉の方面へ商店街を流れくんだり、線路を越えて小杉にいったのですが、その小杉へ行くのとわかれていくと線路沿いの道を、川になってもう大変勢いのいい、標高差 1 メートルくらいあるんですねあれね、川になって流れ込んでうちのセンターの浸水を招いたということなんです。私消防団もやってまして、消防団で活動してます。下沼部の班にいるんですけど 6 時半くらいに、救援要請がありまして、山王町にはいりました。そのとき、胸までつかって避難誘導をやったんですね。という状況だったんですけどもそれが、その時点でもう要するに 6 時、私が写真取ったのが 6 時 50 分なんですけども、道路からものすごい勢いで吹き上がってました。マンホールがはずれて吹き上がったんですね。そういう状況にありました。そんな背景はおいときまして、この間の先日の日枝神社でも説明会でもあがったんですけども、どうもマニュアルのせいにして、自分たちには責任がないんだと言いたいかなのようなこの説明会の資料に大変ちょっと憤っております。山王-5 という資料をご覧になっていただきたいんですけども、わざわざ四角くかかって、降雨がある場合や大雨警報が発令されている等と降雨の恐れがある場合は、山王排水樋管ゲートを全開にする。これがあるから閉めなかったんだよというふうに言ってるように見えるんですね。で実はあの山王排水樋管ゲート操作手順というのがありまして、川崎市上下水道局中部下水道事務所からいただきました。ここには、山王排水樋管の河川水位 A P +3.49m この時点の内容について、降雨の恐れがある場合は山王排水樋管ゲートの全開を維持すると、3.49m のときの話なんですよ。で、そのあと、どこで閉めるのかについては示されていないんですけども、4.5m の時には水位監視体制の強化、で 6.0m の時には地区パトロールをやり、さらに氾濫の注意をしろということで、7.6m というのは、まさに 15 時のゲート閉鎖、総合的な判断をしてゲート閉鎖を行わずという時点なんですけども、ここには、開けとけて書いてないんですよ。ここに開けとけというふうには書いてなくて総合的に判断しろ。総合的に判断するっていうのはどういうことかっていうと、当然、多摩川の水位があがって、内水に逆流するということは、明らかな段階で、閉めるというのは当然の判断だと私は思います。ただ今、個人的意見を言ってもしょうがないので、もうひとつ大事な書類をネットで見つけたので、ご紹介しますが。令和元年 6 月 21 日、事務連絡、国土交通省、水管理国土保全局河川環境課河川保全企画室課長補佐からです。各都道府県政令市河川主管課長殿という連絡があります。この中にですね、樋門のゲート操作は、順流の場合は全開、逆流の場合は全閉とすることが原則である。基本的にはですね逆流したら閉める。こういうふうにはマニュアルのつくりだというのが国土交通省から事務連絡がきているんですけども、この文書のことはご存知ですか。あの当然、河川主管課長がどの方かわからないんですけども、その方にちょっとお答えいただきたいのですが。これを受け取ってどういうことを感じたのか。これはマニュアル作成するにあたってこういうふうにしなさいというそういう指導だとおもうのですが、これについてはいかがでし

ようか。

管路保全課長：

すいません全てを聞き取れなかったので確認したいのですが、国土交通省からの通達、事務連絡で令和元年6月21日の・・・

質問者8：

そうです

管路保全課長：

はい。樋門等の操作規則、操作要領作成における操作員退避の検討にあたってのガイドラインという・・・

質問者8：

そうじゃなくて河川管理施設の操作規則の作成基準の取り扱いについてです。

管路保全課長：

河川管理施設の操作規則の作成基準の取り扱いということですね。はい、こちらの政令市各都道府県、河川主管課長ということで、河川管理施設の操作規則の作成基準となっております。河川管理施設はですね、河川管理者が設置をして管理をしているですね、施設ということでございまして、そこにですね河川を管理している課長のところにでていると通達文ということになります。

質問者8：

上下水道局はそれとは関係ないよってことですか。

管路保全課長：

はい。こちらはですね、河川の今ご説明したところを見ているのですが、ゲートという観点から、下水が管理している水門についても同様でございますので、ゲートについても今後検討して行こうということでございます。

質問者8：

河川管理の専門家の方がいろんなところで発言してますけども、逆流したら閉めるといのは常識だと、これはセオリーだと、いうふうにたくさんのかたがおっしゃってますけども、それについてはどういうふうにお考えですか。

管路保全課長：

今わたくしどもではですね、河川の水位、ゲートを閉めると、開けておくと河川の水の影響で逆流してしまうということは、あります。ただ、閉めてしまうとその降雨によって内水がですね、内陸に降った雨が流れていかないという現象もございますので、そのときにですね、先ほどお話をした気象情報等をですね、・・・

質問者8：

だからそんなことは小学生でもわかる話でしょって言ってるんですよ。多摩川のほうの水位が高いんだから閉めなきゃ入ってくるのはあたりまえでしょう。いつまでいい加減なこといつてるんですか。小学生でもわかりますよそんなことは。いい加減な言い訳してな

いでそのこのところのちゃんとした理由を説明してください。

管路保全課長：

3時の段階で、山王樋管がですね今回7.6mを超えて、多摩川のですね、田園調布の(上)水位観測所で7.6mを確認させていただいてですね、ただ川崎市のですね、中原区役所の雨量で、雨量観測しております、予報も11時59分の段階で12時過ぎから、夜遅くにかけて50mm以上の雨が降る、ところによっては80mmの猛烈な雨が降るという予報がでておりました。その段階の判断といたしましては、内陸に雨が強く降った場合にはその危険があるということで閉めないという判断を行ったということになります。

質問者8：

いくらね、すごい雨が降ったって、1mも2mもね、上がるわけがないでしょ。その平地が、そう思いませんか？

下水道部担当部長：

先ほどの河川関係の通達の関係ですけど、当然、河川関係の通達であって、下水とは違うということは前提としてあるんですけど、順流逆流の関係については当然参考としなければならない事項だと思っております。従いまして、この操作手順ですね、これについても見直していく予定がございます。で、当然その見直すにあたっては、今回の事象をしっかり検証する必要があると思っておりますので、そこは平行して進めていきたいと思っております。

質問者8：

どうしても許せなくってね、友人たちと一緒に、このことをですね、勉強する会を作ろうと思いました。で、学習会を12月8日に総合自治会館でやりたいと思ひまして、そのちらしを作ったんですけども、昨日まではこの中で配布することを許してもらってたんですけど、今日になって、中で配布するのは許さんと言われたんですけども、その方針が変わった経緯について伺いたいんですが。担当の方お願いします。

総務部長：

チラシの経緯について説明いたします。昨日のですね、いらっしゃった出席者の中からですね、このような場でですね、ちらしを配るのはまずいのではないか、というご意見をいただきましたので、中でちらしを配るのは今回ご遠慮いただいているところでございます。

質問者8：

そのマズインじゃないかって言ったのは、何人の方がいらっしゃったんですか。たぶん、配布されて喜んだ方もいらっしゃると思うんですけども。いったい、何人の方がマズインって言ったんですか？

総務部長：

お一人の方でございます。

質問者8：

ひとりでもマズイという意見があったらやめるということですか

総務部長：

そのように判断させていただきました。

質問者 8：

何がマズイのか教えていただきたいんですけど。マズイ理由をおしえてください。

総務部長：

今回の説明会の趣旨はですね、浸水の経緯だったりとかを説明する会でございますので、みなさんとやりとりをしているわけですから、その趣旨を踏まえて判断させていただいたところでございます。

質問者 8：

学習会をやるということなので、市民の皆さんが知恵が付いたら困るなというような、そういうふうに思ったんですかね。

総務部長：

決してそのようなことではございません。

質問者 8：

そういうふうに否定されるのはわかってますけれども、そういうふうにとらざるを得ないという事を申し上げてですね、このあとで、門前で配らせていただきますので、ご興味のある方は是非、受け取っていただいて、ご参加いただきたいと思います。どうもありがとうございました。

質問者 9：

基本的なことでお聞きしたいんですが、川崎市が管理している多摩川に流れ込む樋管ですね、排水樋管とかその他水門というのは、川崎市で何箇所あるんでしょうか。その全てで今回については、水門を閉じなかったのか、閉じたところがあるのか、閉じたところがあるならその地域の状況はどうだったのか。それから、閉めなかったけれども、山王とか多くの浸水があったところ以外で、どういう状況だったのかを教えてくださいと思います。

管路保全課長：

川崎市の下水道で管理をしています多摩川に出る樋管は、全部で 17 箇所ございまして、閉めたというのは山王排水樋管だけ、この山王排水樋管を閉めたのが 22 時 52 分…

質問者 9：

いえいえ、その以前で

管路保全課長：

閉めてはいないです。

市民 9：

閉めてないのは 5 箇所ではないんですか。水害が起こったところ。新聞にもでてますよ。

水門を、閉めないで開いてたの。山王を含み、諏訪の方もみんな、そういう具体的なことは何もおっしゃらないで、ここだけだって言うのはおかしいじゃないですか。

質問者 9 :

だから、17 箇所全てオープンだったわけですね。それで、浸水の被害があったのは、5 箇所だった。それ以外のところはどういう状態だったんでしょうか。閉めなかったのは 17 箇所全てオープンだった。そして、被害が大きかったのは 5 箇所、ということですよ。残りの 12 箇所はどういう状況だったのか。閉めなくても被害が無かった。それはどういう原因だと思いますか。

管路保全課長 :

17 箇所のうちの 10 箇所はですね、丸子ポンプ場とかですね、ポンプ場から排水しているところになります。7 箇所が山王排水樋管と同じように、自然に出てくる所になりまして、そのうちの 5 箇所が被害があったというところがございます、他の 2 箇所が地盤の高さ等の関係で溢れなかったということだと考えております。

質問者 9 :

ということは、ポンプ場を造ればいいということですね、少なくとも。そうすれば被害が少ないわけですよ。それと、土地の低いところに住んでいるのが悪いというような、印象を今受けましたけれどね。私たちはもう昔からここに住んでいるわけですし、他のところへ移動するわけにはいかないわけですね。で、先ほどお聞きしたら、2 年前にも被災を受けているというところでね、なぜ、水門を閉めなかったのか、ルール、さっきから説明ありますけど、総合的という言葉の説明がありますけど、私たちが実感として、総合的というのは納得できないですね、現実に部屋の真ん中まで水が上がってるわけですよ、そういう中でね、総合的な判断だけでは片付けていただきたくはない。というふうに思っています。

管路保全課長 :

先ほどの繰り返しになってしまうんですが、今回の事象を踏まえてですね、ゲートの操作についてもしっかり、見直ししていきたい、検証していきたい。そう思います。土地が低いから決してしょうがないということの発言の趣旨ではなかったということだけは、…はい。

質問者 10 :

ゲートを閉めなかった、逆流してくるというので、うちらとしては、ゲートを閉めて欲しかったというのはあるんですけど、この問題で。これ出てるのは、降雨がある場合、大雨警報が発令されてる場合、降雨のおそれがある場合はゲートを全開にするということなんですけども、逆流しているということは、開けといても排水できないですよ。開ける意味がないと思うんですけども、それは違うんですかね。

中部下水管理課長 :

今のご質問、逆流が生じている状態で、ゲートを開けていても流れないんじゃないかというご質問だと理解しているところなんですけれども、その当時、15 時の時点で、すみません、同じ回答ばかりして申し訳ありませんが、15 時の時点で、避難判断水位 7.6mを超えた時点で、気象予報、台風がこれから川崎市にやってくる、今後 50 mm/h から 80 mm/h の大雨が降る可能性が予測されている中で、ゲートを閉めることによって、さらに上丸子山王 1 丁目 2 丁目町内の浸水が拡大するのではないかという予測をしております、ゲートを閉めないという判断を行いました。

質問者 10 :

水が戻ってきている状況でゲートを開けていても水出せないですよね。だと、閉めるしかないですよね。

中部下水管理課長 :

今回、こういった甚大な被害が発生いたしまして、後藤も先ほど発言しました通り、今回これだけの浸水被害が発生しまして……

質問者 10 :

たぶん拡大するから、おそれがあるから閉めなかったということじゃないですか。拡大っていうのはこの山王地区、この辺の来られてる方たちの地区、てのは浸水するという事が判っていたと思うんですね。で、それを拡大させないためってことは、ここら辺に住んでいる人達は諦められてるっていうことになるんじゃないんですかね。

中部下水管理課長 :

すみません、そういったことではありません。

質問者 10 :

じゃあ、もうちょっと対策してもらわないと、困るし。補償のことになりますけど、例えば、物を修理する仕事があるとして、マニュアル通りに直してましたとして、マニュアル通りにやったけど、それがうまくいなくて壊しちゃいましたとなったら、それは普通補償しますよね。その仕事やってる人は。これだって、マニュアル通りにやったけど、それがうまくいかなかったって部分では、補償は必要なんじゃないかなと思うんですけど。

中部下水管理課長 :

今回の、事象についてはですね、ゲートの操作がどうだったのか、しっかりと検証していきまして、その後にはですね、補償等につきましては、適切に対応してまいります。

質問者 10 :

そうですね、失敗したことに對しては、マニュアル通りにやっても補償しないとまずいですよね。普通に考えても。

中部下水管理課長 :

その辺は今後、検証した結果……

質問者 10 :

そういう回答しかないと思うんだけど、今はね。わかりました、はい。

質問者 11 :

お願いします。ゲートは閉めてください。聞けば聞くほど閉めるべきだったと考えます。いろんなことが想定できなかったこともあると思います。想定以上の水が来てしまった。今後もっと台風の威力は強まると報道されています。ただ、新聞などのニュースを見るたびに、閉めるのに12時間かかってしまった、そのたびにいろんな人から私は問合せを受けました。「これって市がいけなかったんじゃないの、市に賠償求められないの」、家の補修1,800万円見積もり来てます。これについて補償求められるか、それって答え、たぶんここでは出ないんです。でもお願いします。閉めてください。閉めました、これから皆さん内部の雨水で水が来てしまうんです。高いところへ避難してください。早めに言ってください。どうかお願いします。おそらくどんなこと説明されても、やっぱり閉めるしかなかったと思うんですよ、閉めるのに12時間かかってしまった。それは何の問題もなかったって言うんだったら、新聞紙さん訴えてください、あるいはホームページに出してください。私たちちゃんとやってました、マニュアル通りにやってました。閉めようとした、閉めるのもちゃんと閉めたんです。こういう判断したんです。そういうのがあれば、しかも下がらなくて済むと思います。下がるんけども、食い止めることができると思います。一つだけです、お願いは、閉めてください。検討に時間がかかって時だけが過ぎるってことだけは止めてください。どうかお願いいたします。以上です。

下水道部長 :

今のゲートの問題ですけども、これにつきましてはですね3月を目途にですね、今、ゲートの見直しですね、言われてたとおり、ゲートを閉める、ゲートにつきましては今人力なので、自動に変えるとか、そういうところをですね、今検討してますので、今しばらくお待ちいただければと思います。

質問者 11 :

検討じゃなくて、是非やるということでぜひお約束をしていただけないでしょうか。検討します検討しますじゃなくて。

下水道部長 :

見直しして、ゲートの閉める位置とか、検討しないとその位置はでないの、それは検討した上で、閉めるという・・・

質問者 11 :

公表してください。

下水道部長 :

公表しますので、

質問者 11 :

公表してみなさんに教えてください。

下水道部長：

それは公表しますので、よろしくお願ひします。

質問者 1 2：

昨日お聞きした丸子ポンプが浸水しちゃうから、浸水しないようにって判断された、おそらく松川さんですね、もし違ったらごめんなさい、丸子ポンプを閉めるために判断されたその基準ていうのを、まず簡単に言っていただきます。何かこう、トイレが使えなくなっちゃったりとか、っていうお話をされてたかな、と思いますけど、どういった被害が起きる可能性がありますか。

下水道部担当部長：

昨日のご説明差し上げたのはですね・・・

質問者 1 2：

簡単にでいいです。短めで、トイレが使えなくなるとか。

下水道部担当部長：

そうです、ここの山王、排水区のお名前で行きますと丸子その 1 排水区、それと、ポンプ場が管轄しているのは丸子その 2 排水区、ここの丸子その 1、その 2 排水区の汚水は、この丸子ポンプ場の汚水ポンプを経由して、加瀬水処理センターに行ってます。ですので、ここの丸子ポンプ場が水没してしまうと、ポンプが動かなくなってしまっしまいます。そうするとトイレが使えない状態に・・・

質問者 1 2：

あとはどういったことが起きますか。周辺地域にどういったことが。

下水道部担当部長：

トイレが使えなくなることによって、それは、知らずにトイレを使ってしまうと、当然その周りに汚水があふれてしまったりとか、そういった被害も拡大していく、ということが考えられます。

質問者 1 2：

わかりました、ありがとうございます。では今回、下水が私たちのところに上がってきてるんですけども、下水だと思ふんですけど、多摩川の水があがってきてる。そのときに、ゲートを閉める閉めないの判断。今回、その判断がいろいろと理由がある中で判断されたと思ふんですけども、今回実際にゲートを閉めなかったってことで、下水、多摩川の水が入ってきたっていう結果を踏まえて、その判断が実際正しかったのか、正しくなかったのか、ぜひその判断をされた藤井所長ですかね、答えていただけますでしょうか。正しかったのか、正しくなかったのか。

中部下水道事務所所長

今回の判断につきましてはですね、先ほども何回もご説明してるところでございますけれども、操作手順に基づいた形です、ゲートを閉めない、というような判断をしたと

市民 13 :

そうだ。

質問者 13 :

そうですね、というのはね私は、怒ってます。いかってます。で皆さんこうやっていらっしゃるから、つい怒りをぶつけて若干フラストレーションが減ってしまうんですけども、それで満足はしてません。いかってます。明日もいかってます。来週も、来月も、怒ってます。このいかりを抑えるにはどうしたらいいかっていうと、やっぱりあなた方の責任をちゃんと認めてもらって、先ほどから補償、補償っていいですけど、これ賠償です。補償ではありません。補償ってというのは、正しいことやった場合の補償ですからね。賠償ってのは、責任です。川崎市ってのは例えば保険には入ってるんでしょうか。自動車でいうところの自賠責保険です。どうなんでしょうね。あの私が求めるのは、何かっていうと、皆さんが過失を認め、責任を認め、そして、賠償責任を負わせ、その賠償責任から逃れることができない状況を作りたいんですよ。そういうことですよ。でそうなったときに初めて、この人たちの意識改革ができるんです。私昨日質問しました、先ほど、どなたか言いましたよね。上流にある小河内ダム放流の話、毎秒 750 t、25m プール三杯分といいました。東京ドームの天井までいっぱいになるのが 30 分かからずにいっぱいになる、っていうのが流れてたって言いました。でそういったことになった場合、事前にシミュレーションしてるのかっていう質問をしました。要するに、放流があった場合どれぐらい川が上昇するのかっていうのをご存じなんですか、っていうのを質問しました。誰も知らない、知らないんです。検証してないんです。シミュレーションしてないんです。でさらに言いました、小河内ダムは東京都水道局、要は東京都ですよ、東京都と打診、協議、相談等あるのかっていう質問をしました。要するに、我々は放流をされても、かなしいかなただただはい、わかりました、と東京都に受け入れることしかできないのか、っていう質問をしました。こう答えました。はい、そのとおりです。川崎市そんなに情けない立場なんですか。とても疑問です。まあでもそれは昨日の答えしか、それはしょうがない、現状そうなんだから。でもだったら、このあと、それをちゃんと、相談、意見、進言ですか、小河内ダムは東京都、それから多摩川は国土交通省、国ですよ、意見するなり進言するなりしてくださいよ。お願いしますよ。樋門閉じる、閉じないの問題もあるけれども、HWL を超えて、十何m でしたっけ。堤防の一番高いところ、私よくサイクリング行ったり散歩してるんでよくわかります。犬の散歩してるんで。一番高いところの 1m か、2m まで行かないとこまで水が来てましたよね。もうこれ最終的には樋門閉じる、閉じないの問題ではない。来ますよ、超えて、越水しますよ。そしたらもう小河内ダムの放流を、少なくとももう少し少ないでしょう。そういうことも進言してくださいよ。どうなんでしょう、これはお願いです。質問ではありません。

市民 13 :

確約してもらえばいいじゃん。

質問者 13 :

この場での確約難しいと思うんですけども、そういうこと検討してもらえるかどうかということ。川崎市ってそんなに悲しい立場なんですか、我々はそんなに悲しい立場なのかなあ、お願いします。これは質問ではありません。

下水道計画課長 :

先ほどご意見ありました、小河内ダムですとか、多摩川管理している国土交通省につきましては、今回の事象もごございますので、しっかりとですね、話をしていきたいというふうに考えております。

質問者 13 :

はい、多分この場で確約はできないんでしょうけどね。立場的に、でもぜひそれをお願いしたい。それと、樋門の閉じた、閉じないの問題が昨日も、今日も議論がありますけど、きっと決着つかないんでしょう。先ほど、どなたでしたっけ、勉強会のうんぬんっていった方、ちょっとご起立いただいていいですか、こういった方たちと、私たちが手を結んで、なにかしら力を与えないとこの人たちは責任を認めないんですよ。この場でいくら議論しても責任を認めないんですよ。そういうことですよ。ねえ我々ちょっと力付けましょう。先ほどもいいましたけど、こうやって当たってしまうと、ちょっと、ねえ、いかりが治まっちゃうの。でもそれは間違いです。そんなんで許しちゃいけない。私は怒ってます。明日も怒ってる。来月も怒ってる。多分来年も怒ってる。この怒りを皆さん持ちましょう。で、怒りをエネルギーに変えましょう。この人たちに何かしら力を与えないと、この体制変わりません。

市民 13 :

あとね、検証するって言うけど、その人たち検証できない。

質問者 13 :

そう、第三者機関必要ですよ。勝手に検証されて、都合のいい答え出されても困りますよね。

市民 13 :

自分たちの都合のいいよう、結論を導くような、そういう検証委員会ができるに決まってるんで、第三者検証委員会作ってください。

質問者 13 :

お願いします。ここでいただけますか。

管路保全課長 :

まずは、上下水道局一番管理をしてるところで、しっかり検証し、その結果、第三者のご意見、必要などころではしっかり聞いて検証をまとめていきたい、と思っております。

質問者 13 :

ありがとうございます。すいません、貴重なお時間を。

質問者 14 :

四点ばかり質問がありますのでお答えください。まず一点、多摩川の左岸の、太田区側ですね、と比較した場合に左岸につきましてはですね、丸子川が氾濫したということで、水が出せないということで、あそこも浸水しました。ところがですね、3日後に行ったら、まあ普通の生活、もちろん家具なんかは道路に出してあったんですけども、実際の生活してる人は、まあなんとかできるという状態になっていました。ところが、こちらの右岸のほうではですね、1か月たってもまだまともな生活ができないという状態で、この違いは何だろうか、というのがありましてですね。丸子川につきましては、区役所、消防署、消防団のポンプ、ポンプアップによってですね、多摩川に流したと、それも7時まで、命の危険が生じるということがあって、撤退したということを経験なんかでも聞きました。この差は何だろう。車でですね、何か所か巡回してそれが本当にですね、内水を何とかしようという措置だったのか、というのが一つあります。二点目、想定水位これはですね。山王-3という地図がありますけども、ここにおいてですね、浸水が1.3mを超えることで確認しました、ということになってますがこの絵の中でですね、水色になってない部分があります。相当あります。上丸子小学校、郵便局から入ってくる小学校の北側、それから綱島街道に伸びるところですね。そこについてはですね、少なくとも膝上、私の膝以上に溜まっています。それからNECの中。三日四日浸水のためにですね、事業を行ってないという話も聞きました。ですからこの想定地図、確認しました、ってことなんですが、本当に確認したんでしょうか。それから三番目、あれだけの泥水が入っているわけですから、当然そのあと、糞尿の入っている粉塵が舞っています。どういうふうにして、その消毒をしたんでしょうか。しないで、そのまま放置してあれば、当然病気等が蔓延するわけです。子供達には、マスクを下さい、という話はしましたけれども、役所の対応は、どういうふうにしたんでしょうか。それから四番目、今後検討します。とかですね、検証しますという回答だったんですが、こうやりますという確定の返事ありません。極端に言えば他人事、ですから、もし、本当に一緒になってなんとか考えよう。ということであればですね、山王2丁目に皆さんがお住まいになってですね、一緒になって身の危険を感じないとですね、多分わからないんじゃないか、という感じはします。ぜひ一緒に住んでください。そうすれば実際わかりますよ。本当にどうなのか、家族ともども住んでください。以上です

中部下水道事務所管理課長 :

山王-3の浸水しているエリアの水色の分につきましては中部下水道事務所の職員がですね、13日翌日からこちらの道路を歩きまして水の跡があるところを探しながらですね、ずっと歩いて調べて図面を作っておるんですけども、確かに水が引いてしまって、NECさんですか、そういったところの浸水は現地で確認できませんでした。わからなかったというのが本当のところでございます。すみません。

質問者 14 :

1.6mくらいはいったんじゃないかというふうに聞いています。

市民 14 :

地下も浸水してるの？工場。

質問者 14 :

工場は地下まで浸水しています。

質問者 15 :

聞きたいんですけど、避難所があった上丸子小学校は見に来てないということなんですか。上丸子小学校に避難している際に夜中見ていると鉄棒まで隠れるくらいの水位とかがあったんですよ。そういうのも確認していないということですか。

中部下水道事務所管理課長 :

上丸子小学校につきましては現地のほう夜中に写真にあるとおり確認をしたんですけど、学校の中までは写真をとっておりません。

質問者 15 :

避難地なのに確認してませんで、避難する場所なのに安心できないですよ。おかしくないですか。

中部下水道事務所管理課長 :

おっしゃるとおりだと思います、はい。すみません。

管路保全課長 :

先ほどのご質問の続きなんですけど、今後の検証をこうやりますと言わないと他人事のようにだと、厳しいご意見だと思います。今回の被害をちゃんとしっかり検証して、できることを先ほどご説明ありました、今度の3月目途にですね、検証を進めて、まず早い段階で、できることを、一番最初にご説明させてもらいましたが被害の最小化を進めていきたい。ちゃんとした検討、抜本的な検討についても検討していきたい。そう考えております。

質問者 15 :

検証の途中で中間報告ってしてくれますか。

下水道計画課長 :

検証の結果につきましてはできるだけわかりやすい形でですね公表のほうをしてまいりたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

質問者 15 :

中間報告は？

下水道計画課長 :

そのタイミングっていうのはあれですけど、報告できるかぎりですねそういった形でですねやらせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

質問者 16 :

すいません、えっと活動記録のところを知りたいんですけど、判断のタイミングっていうのはこの11時半と15時と22時52分の3つしかないんですか。

中部下水道事務所管理課長：

判断基準につきましては、上丸子山王地区ですね、田園調布（上）水位観測所の水位がですね6mよりも前から現場のマンホール2箇所とですね、多摩川の排水樋管箇所の水位の測定、浸水が始まる前から水位を測定しておりまして、その水位を基にですね、現地のほうの、今後、どうなってくるか危険性が高まってくるのかっていう水位の測定をずっと大体1時間に1回ぐらい行っております。判断は2回っていうわけではなくて、その水位測定の結果をもとにその都度、避難判断水位7.6になる間もですね、ずっと現地を水位測定して計測をして判断しています。

質問者16：

ごめんなさい、7.6になるかどうか判断基準だったことですか。

中部下水道事務所管理課長：

はい。

質問者16：

でもそれ15時でそれ超えてゲート閉鎖してないですよ。

中部下水道事務所管理課長：

何回かご質問をいただいておりますけれどもその15時の時点では、中原区、川崎市内に降雨がありまして気象予報とか台風の進路の予報からですね、今後50mmもしくは50mmから80mmの降雨がある恐れがあるという予報をもとにですね、ゲートの閉めない判断をしております。

質問者16：

じゃあ次は何時のどのタイミングでどの情報で判断する予定だったんですか。15時のあと。

中部下水道事務所管理課長：

15時以降の判断につきましては、先ほどご説明しました22時52分丸子ポンプ場が水没する恐れがありましてゲートの閉鎖を判断しております。

質問者16：

じゃポンプ場が水没するかどうか判断基準で、それまでずっと静観したってことですか。

中部下水道事務所管理課長：

その前まではですね、やはり降雨がありまして、雨が降っていたって状況がございましたから、ゲートの閉鎖の判断をしていません。

質問者16：

でも22時9分の写真とかですでに浸水、溢れてるんですよ？道路から水が。マンホールから溢れてるかどうかのチェックとかをしていて、しているけどもそれは判断基準にな

らないってことですか。今ちょっと回答は難しいと思うので、えっと 12 日から 13 日の活動記録の詳細を開示していただけますか。で、体制がどうなって現場の判断が、現場の情報から判断をする人までのルートがどうなっていくのか、どのタイミングでどういう判断をしていたのか、それがどの時間帯で行われたのかっていうのを詳細開示していただけないですか。それって検証いらないと思うので事実なんで明日にもできると思うんですけど。

中部下水道事務所長：

活動記録の開示ということでございますけども、申し訳ないのですが今すぐにですね、これこれこういう活動をしましたということですね、お見せできる、今、開示できるような資料もございませんので、こういった形で開示できるかということもございますので、検討をさせていただければというふうに思っております。

質問者 16：

何を検討するんですか。こういったふうの開示するってどういうことですか。全然川崎市のホームページとかに詳細を箇条書きとかでも書いてもらえば大丈夫ですけども。

中部下水道事務所長：

そういった手法も含めましてですね、また別途ご回答させていただければと思います。

質問者 16：

別途回答ってどうやってもらえるんですか。

中部下水道事務所長：

市のホームページですね、今回他の記事も含めまして議事録等の公開をすることを考えてございますので、そういったところを活用いたしまして、ご回答のほうをさせていただければというふうに思います。

質問者 16：

それって何月何日に開示されるんですか。

中部下水道事務所長：

すいません、今の段階で具体的な何日という日にちまでは。

質問者 16：

開示じゃなくてそのホームページに載せるのっていつですか。

中部下水道事務所長：

大体一週間くらいを目処にというふうに考えていただければ。

質問者 16：

いまから一週間。そこで納得できない場合はどこに問い合わせすればいいですか。開示情報がいまいだなと足りないなとか思ったとき、どこに伝えればいいですか。それも一緒に問い合わせ先が書いてあるって理解で大丈夫ですか。

中部下水道事務所長：

そうですね、そういったご意見を設ける場ができてるか、申し訳ない、私もまだホーム

ページの構成とか確認しておりませんのでわかりませんが。

質問者 16 :

どこに載せるかわからないのに答えちゃってるわけですか。

中部下水道事務所長 :

ただそういった議事録の公開等については実施するという事はすでに決まっておりますので。

質問者 16 :

わかりました。じゃあいったん一週間後の開示、が議事録としてある。そこで詳細は書いてある、不足している場合はその資料の中に問い合わせ先が書いてあるってことで大丈夫ですか。

中部下水道事務所長 :

そうですね、どちらに問い合わせしていただければよろしいかということはホームページ上で記載したいと思います。

質問者 16 :

わかりました。ありがとうございます。

(当日回答できなかった事項に対する回答)

12日から13日にかけての活動といたしましては、はじめに、12日の9:05から現場パトロールを開始し、11:30に山王排水樋管地点の河川水位がA.P+3.49mを超えたことを確認しました。その後、15:45頃に上丸子山王町で浸水が確認されるまでの間、現地のマンホールで水位の観測を概ね1時間毎に実施するほか、現地の状況確認を継続して実施しておりました。さらにその後、22:52にゲート閉鎖操作を開始するまでの間は、周辺住民への避難の呼びかけと現地の状況確認を継続して実施しておりました。また、22:52以降につきましては、ゲートの閉鎖操作を継続して実施したほか、現地の状況確認を継続して実施し、13日の10:50にゲートの閉鎖を完了したものでございます。さらに16:50には、山王排水樋管地点の河川水位がA.P+3.49mを下回ったことを確認し、ゲートを全開しております。

ゲート操作の判断につきましては、山王排水樋管地点の河川水位がA.P+3.49m超を確認した11:30と田園調布(上)水位観測所の河川水位がA.P+7.60m超を確認した15:00に行ったほか、現地マンホールで水位測定を実施したタイミングや、上丸子山王町で浸水を確認した15:45頃に行っております。また、その後も、継続的に雨量データで降雨の状況を確認するとともに、降雨の予報や河川の水位データなどを確認し、ゲート操作の判断を行っておりました。22:52にはゲート閉鎖の判断をし、閉鎖操作を実施いたしました。

なお、体制や情報伝達など活動の詳細や操作の判断につきましても、3月を目途に検証してまいりますので、検証結果を公表する中で、開示してまいります。

司会 :

すいません、そろそろですね時間もおしまいましたので総括的な事項を鈴木下水道部長のほうから報告させていただきます。

下水道部長：

本日は、説明会ご参加いただきまして誠にありがとうございました。下水道部長の鈴木でございます。冒頭でもお話をさせていただきましたけども、今回の事象につきまして我々は大変重く受け止めているところでございます。今日も、皆さんから、厳しいお言葉をたくさんいただきました。しっかり、その辺をふまえて、これから取り組んでいかなければならないなと思ってございます。先ほどからありますようにゲート操作につきましてはおそらく皆さん納得されていないところだと思います。これにつきましては先ほど申しあげたとおり、しっかりと3月末までには見直しを行っていくということで、お話をしていきます。このゲートの操作によって結果としてこの地区において、多大なる浸水被害を発生してしまったということは事実でございますので、その原因を、先ほどから検証検証と言ってますけども、しっかりと原因を検証した上で、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。先ほどから言ってますように3月までには一定の方向性を出していきたいと思っています。それからまた雨季までにもゲートの操作の見直しを行うとともに、ポンプとかそういう設備もしっかりとやっていかなければいけないと思っています。それとともに、抜本的な先ほどありましたようにポンプ場であるとか雨水貯留管であるとか、そういう抜本的な取り組みについても、今後中長期的な形で検討を進めていきたいと思っておりますのでどうかよろしく願いいたします。本日はお忙しい中本当にありがとうございました。

司会：

本日のですね指摘内容ですとか、あとは本日回答がなかった事項についてはですね、後日上下水道局のホームページにて公表いたしますのでご参考にしていただければと存じます。なおホームページをご覧になれない方についてはお帰りの際、受付にお知らせいただきますようよろしくお願いいたします。これをもちまして本日の説明会を終わります。本日は誠にありがとうございました。